

この小さな手さえあれば 全盲夫婦の子育て日記

荒川明宏さん、広子さんご夫妻は、ともに幼いときに視力を失いました。
ふたりの間に誕生した待望の赤ちゃん、裕太君。
何でもないことにつまづく。でもやめるわけにはいかない。
この小さな手 この小さな手さえあれば——。
全盲の夫婦が自分たちの力で赤ちゃんを育てる。
これは全盲夫婦の子育て日記です。



この作品のもとになった番組が放送されたときには、一般の方だけでなく、小・中・高校生からも大きな反響が寄せられました。

この作品には、親子の愛情、保育、福祉など、いろいろな要素がつまっています。

テーマを絞って視聴したり、自由に感想を話し合ったり、教科・領域を問わず使用できると思います。どうぞご利用ください。

私が、この番組を通して皆さんに伝えたかったことは「障害を持っていることはなんてことないことなんだ」ということです。

目が不自由な荒川さんご夫婦から「子供が生まれます」というお葉書をいただいた時、私は正直なところ「あー、なんて大変なんだろう」と思いました。夫婦お二人とも目が不自由で、さぞ不自由だろうと考えたのです。しかし、荒川さんご夫婦とおつきあいしているうちに、その考えが、間違っていたことに気づきました。例えば、哺乳瓶の消毒。熱湯の中での消毒は、目の不自由な広子さんにとって、最初は、とても大変なことでした。けれども、数週間後には、道具を工夫することで哺乳瓶の消毒は簡単にできるようになっていました。また、明弘さんの通勤にご一緒させていただいた時の経験も驚きでした。明弘さんは「耳」や「記憶」を目の代わりにつかって、なんなく通勤していたのです。

私は、荒川さんご夫婦とおつきあいをさせていただいたこれらの経験を通して、こう思いました。「目がみえないことは確かに不自由なことが多い。けれど、不自由なことは、工夫や、訓練で、不自由ではなくなるんだ……」。

私達は、日常生活の中で「何かが人より不得意だったり、できなかつたりすること」を「不幸なこと」だと思いがちです。でも、人間誰でも、不得意なことはあるのです。私だって友達になかなか優しくできないし、英語も大の苦手です。そんな自分を「なんだかさえない不幸な人間だなあ」などと思ってしまうこともあります。でも、荒川さんご夫婦の生活をみて、「できないことは不幸なことではないんだ」と思えるようになりました。できないことがあっても、時間をかけて、工夫と努力を重ねれば、きっと解決できる方法があるはずです。

人間にとって大事なことは「何かができるとかできないということ」ではなく「心をどう持つか」ということではないでしょうか？ できないことを「不幸なこと」と思ってしまうと、暗い気持ちになってしまいます。でも「できないことがあるということ」は「できない人の気持ちがわかる」ともいいかえることができるわけで、私はそう思うことで、なんだか少し元気になれるような気がします。

私が荒川さんとおつきあいした中で感じてきたこれらのことを、ビデオをみてくださる皆さんに、少しでも感じていただければ、とても嬉しいと思っています。

井上 啓子

(いのうえ けいこ クリエイティブ ネクサス ディレクター)

目が見えないということはとても不自由なことです。

「タクシーを探して乗る」たったこれ一つのことでもスムーズには行きません。スムーズに行かない私を見て「周りにはどのように思うだろうか」そんなことを考えたら恥ずかしくて外にも出られません。「目が見えない」ということで景色を見たりする能力は残念ながらありません。

でも、そんな失ったことばかりを考えたら生きてるといことがつまらないものになってしまいます。

そして、「自分にできること」それをたくさん考え、実行することにしていきます。ちょっとおかしいかも知れませんが、「目が見えない」ということは「算数や数学が全く苦手」、算数が嫌いだからって人生終わりではありませんよね？それと同じようなささいな小さなことだと考えています。

私は数学が好きで、それをいかしたくてコンピュータのSEになることができました。今ではその知識と経験をいかして、目の見えない人にパソコンを教えて、使えるようにしてあげる会社を開いています。そして妻と裕太と3人でくらしています。「目が見えずにかわいそうに」と時々言われることがあります。私は自分で不幸だとは思っていませんし、そう私にいう人の方が私にして見たら「外見でしか人を見ない」かわいそうな人ですね。

私が一番大切にしているのは私の周りの人たちです。パソコンの仕事をしていますが、電子メールにより人との直接のコミュニケーションを大切にしています。そして何かをするときはあきらめずに最後まで全力で何かをすることです。私たち家族が不自由でもこうして生活できるのは「周りの人」そして「負けないぞ」という気持ちをつねに持っているからでしょう。

そして、みなさんも体の見た目や、勉強ができるできないなどの形だけにとらわれなくて、自分の特技を伸ばし、相手を思いやれる優しさを持ってください。

荒川 明宏

(あらかわ あきひろ)

